

その他研究業績一覧

1. 研究論文・図書リスト

(1) 査読付き論文リスト（口頭発表のための資料集に掲載された論文等は含めない）

- [1] 横川昌史・佐藤千芳・高橋佳孝、“過去の草地改良が草原植生に与える影響：阿蘇地域での一例”、地域自然史と保全Vol.39 No.2 pp113-119（2017年1月）
- [2] 増井太樹・横川昌史・高橋佳孝・津田智、“熊本県阿蘇地域における斜面崩壊後4年目および26年目の半自然草原植生”、日本緑化工学会誌 44 pp352-359（2018年11月）
- [3] 丸山徳次、“事件の哲学と応答倫理学—「事例研究」ではなく”、関西倫理学会編『倫理学研究』第48号 pp28-39

(2) その他の誌上発表リスト（図書を除く、査読のない雑誌等）

- [1] 遊磨正秀、“ゲンジボタル成虫発生量の年変動：降雨以外に月の明るさは影響するのか”、全国ホタル研究会 51 pp12-15.（2018年7月）
- [2] 秋山道雄、“桂川流域の経験”、水資源・環境学会 NEWS LETTER No.78 pp7-8（2018年12月）
- [3] 井上雅仁・高橋佳孝、“島根県三瓶山の刈り取り草原における絶滅危惧植物スズサイコの動態”、島根県立三瓶自然館研究報告Vol.16 pp7-14（2018年3月）

(3) 図書リスト

- [1] 牛尾洋也、“公衆の水への権利に向けて—水法の法理論的課題—”、牛尾洋也・吉岡祥充・清水万由子（編）『琵琶湖水域圏の可能性 里山学からの展望』、晃洋書房pp55-70、（2018年3月）
- [2] 吉岡祥充、“公社造林と里山—「造林公社問題」の残された課題—”、牛尾洋也・吉岡祥充・清水万由子（編）『琵琶湖水域圏の可能性 里山学からの展望』、晃洋書房pp232-247、（2018年3月）
- [3] 清水万由子、“ストックとしての里山と持続可能な発展—琵琶湖水域圏における人と水の相互作用—”、牛尾洋也・吉岡祥充・清水万由子（編）『琵琶湖水域圏の可能性 里山学からの展望』、晃洋書房pp71-84、（2018年3月）
- [4] 丸山徳次、“「里山問題」の転換と里山学の課題—〈文化としての自然〉の保全・再生—”、牛尾洋也・吉岡祥充・清水万由子（編）『琵琶湖水域圏の可能性 里山学からの展望』、晃洋書房pp3-17、（2018年3月）
- [5] 秋山道雄、“琵琶湖保全再生計画の位相—琵琶湖総結後20年間の堆積と変容をめぐって—”、牛尾洋也・吉岡祥充・清水万由子（編）『琵琶湖水域圏の可能性 里山学からの展望』、晃洋書房pp18-29、（2018年3月）
- [6] 田中滋、“琵琶湖とその「乳母」たち—流入河川の存在意義を考える—”、牛尾洋也・吉岡祥充・清水万由子（編）『琵琶湖水域圏の可能性 里山学からの展望』、晃洋書房pp30-42、

(2018年3月)

- [7] 田中滋、“河川、琵琶湖、盆地による〈繋がりと分断〉を考える—近代化の「負の遺産」克服のために—”、牛尾洋也・吉岡祥充・清水万由子（編）『琵琶湖水域圏の可能性 里山学からの展望』、晃洋書房pp98-110、(2018年3月)
- [8] 石塚武志“琵琶湖流域治水条例”、牛尾洋也・吉岡祥充・清水万由子（編）『琵琶湖水域圏の可能性 里山学からの展望』、晃洋書房pp43-54、(2018年3月)
- [9] 中川晃成、“流域をとらえる—愛知川流域の地形・水系・地割—”、牛尾洋也・吉岡祥充・清水万由子（編）『琵琶湖水域圏の可能性 里山学からの展望』、晃洋書房pp87-97、(2018年3月)
- [10] 中川晃成、“近江愛知郡神崎郡の条里と古代愛知川流路”、牛尾洋也・吉岡祥充・清水万由子（編）『琵琶湖水域圏の可能性 里山学からの展望』、晃洋書房pp111-122、(2018年3月)
- [11] 釜井俊孝、“戦後の里山開発と谷埋め盛土地すべり”、牛尾洋也・吉岡祥充・清水万由子（編）『琵琶湖水域圏の可能性 里山学からの展望』、晃洋書房pp123-134、(2018年3月)
- [12] 村澤真保呂、“里山の心理的景観と環境教育”、牛尾洋也・吉岡祥充・清水万由子（編）『琵琶湖水域圏の可能性 里山学からの展望』、晃洋書房pp135-139、(2018年3月)
- [13] 山中裕樹、“環境DNA分析による琵琶湖水系の魚類相解析と生態研究への応用”、牛尾洋也・吉岡祥充・清水万由子（編）『琵琶湖水域圏の可能性 里山学からの展望』、晃洋書房pp143-154、(2018年3月)
- [14] 須川恒、“カワウ問題解決のための順応的管理と河川環境改善”、牛尾洋也・吉岡祥充・清水万由子（編）『琵琶湖水域圏の可能性 里山学からの展望』、晃洋書房pp155-164、(2018年3月)
- [15] 太田真人、“河辺林の特徴と蝶から見る里山的価値”、牛尾洋也・吉岡祥充・清水万由子（編）『琵琶湖水域圏の可能性 里山学からの展望』、晃洋書房pp165-177、(2018年3月)
- [16] 岩瀬剛二、“荒川下流河川敷における外来寄生植物ヤセウツボの繁殖”、牛尾洋也・吉岡祥充・清水万由子（編）『琵琶湖水域圏の可能性 里山学からの展望』、晃洋書房pp178-181、(2018年3月)
- [17] 猪谷富雄、“多様な稲による地域おこし—滋賀県の稲作と古代米—”、牛尾洋也・吉岡祥充・清水万由子（編）『琵琶湖水域圏の可能性 里山学からの展望』、晃洋書房pp182-187、(2018年3月)
- [18] 宮浦富保、“東近江市の森林利用の歴史”、牛尾洋也・吉岡祥充・清水万由子（編）『琵琶湖水域圏の可能性 里山学からの展望』、晃洋書房pp191-197、(2018年3月)
- [19] 須藤護、“東近江・小椋谷と木地師”、牛尾洋也・吉岡祥充・清水万由子（編）『琵琶湖水域圏の可能性 里山学からの展望』、晃洋書房pp198-209、(2018年3月)
- [20] 山下直子、“中山間地における広葉樹資源の循環的利用と森林再生”、牛尾洋也・吉岡祥充・清水万由子（編）『琵琶湖水域圏の可能性 里山学からの展望』、晃洋書房pp210-221、(2018年3月)
- [21] 占部武生・水原詞治、“薪ストーブの状況とその燃焼ガス中未燃ガス（一酸化炭素）の触媒による完全燃焼化実験”、牛尾洋也・吉岡祥充・清水万由子（編）『琵琶湖水域圏の可能性 里山学からの展望』、晃洋書房pp222-231、(2018年3月)
- [22] 鈴木龍也、“入会の環境保全機能に関する一考察—近年の入会訴訟の検討から—”、牛尾

- 洋也・吉岡祥充・清水万由子（編）『琵琶湖水域圏の可能性 里山学からの展望』、晃洋書房 pp248-259、(2018年3月)
- [23] 西脇秀一郎、“地縁団体の法的性格とその規範的意義”、牛尾洋也・吉岡祥充・清水万由子（編）『琵琶湖水域圏の可能性 里山学からの展望』、晃洋書房pp260-279、(2018年3月)
- [24] 金紅実、“中国森林財政の発展と森林保全政策の展開—里山学の視座から—”、牛尾洋也・吉岡祥充・清水万由子（編）『琵琶湖水域圏の可能性 里山学からの展望』、晃洋書房pp280-293、(2018年3月)
- [25] 池田恒男、“水管理の国家化・技術化と「権利の体系」—水・人間関係への法学的接近方法の備忘録—”、牛尾洋也・吉岡祥充・清水万由子（編）『琵琶湖水域圏の可能性 里山学からの展望』、晃洋書房pp294-315、(2018年3月)

2. 口頭発表リスト

- [1] 遊磨正秀、“愛知川における河床高の変動とアユ”、愛知川 成果発表会・ワークショップ、五個荘コミュニティセンター、(滋賀県東近江市) (2018年10月30日)
- [2] 遊磨正秀、“ホタルのくらし”、京都市御所東小学校学習会、(京都市) (2018年10月18日)
- [3] 遊磨正秀、“ゲンジボタル成虫発生量の年変動：降雨以外に月の明るさは影響するのか”、第51回全国ホタル研究会 北海道稚内・豊富大会、(稚内市) (2018年7月21日)
- [4] 遊磨正秀、“教えて！ Goo, コラム「教えて！ ウォッチャー」、ホタルの見頃や生態を調べてみた”、<https://oshiete.goo.ne.jp/> (2018年6月5日)
- [5] Hayato Sawada, Kanji Shigeta, Masaki Kawakami, Sohei Fujiwara, Masahide Yuma, Atsushi Maruyama. Spawning characteristics of life-history polymorphic landlocked Ayu in Lake Biwa as revealed by stable isotope analysis. The 8th EAFES International Congress, Nagoya. (2018/4/22)
- [6] 林珠乃・遊磨正秀・太田真人・Patrick Chinguwo・Bosco Rusuwa・Richard Zatha・Gibson Kamanje・丸山敦、“マラウイ湖国立公園における森林資源の利用と保全”、第65回日本生態学会大会（札幌市）(2018年3月17日)
- [7] 林珠乃、“『滋賀県物産誌』を用いた明治初期の滋賀県における自然資源利用の復元”、日本景観生態学会 第28回大会（宮崎市）(2018年9月17日)
- [8] 林珠乃、“『滋賀県物産誌』を用いた明治初期の滋賀県における自然資源利用の復元”、2018年人文地理学会大会（奈良市）(2018年11月24・25日)
- [9] 林珠乃、“明治初期の滋賀県全域における里山利用の復元”、第66回日本生態学会大会（神戸市：発表確定）(2019年3月18日)
- [10] 江南和幸、“ヨーロッパ人びとを魅了した日本の園芸—江戸植物絵本と名所図会にその源を探る” 灘浜サイエンススクエア (2018年9月2日)
- [11] 江南和幸、“川の恵み—野草食の喜びと植物文化” 河川レンジャー：木津川管内出張所主催 (2018年5月26日)
- [12] 秋山道雄、“琵琶湖保全再生計画の試金石—クリティカルポイント・赤野井湾の事例から—”、水資源・環境学会2018年度研究大会（東京都文京区）(2018年6月2日)
- [13] 好廣眞一、“親戚や祖先の「あたま」の模型を作ろう”、龍大RECジュニアキャンパス 2018（京都市）(2018年8月)

- [14] 好廣眞一、“ヤクザル調査隊30年—これまでのあゆみと分ったこと—”、ヤクザル調査隊講演会（屋久島町）（2018年8月）
- [15] 高橋佳孝、“森林の国で、野原を守る ～古くて新しい草の循環利用～”、ウスイロヒョウモンモドキ意見交換会（新庄村）（2018年2月18日）
- [16] 高橋佳孝、“草原の危機：火入れと利用が守る草原の生態系と地域の将来”、第12回サイエンスカフェ RRM（豊岡市）（2018年7月28日）

3. 報道発表リスト

- [1] “おはようパーソナリティ道上洋三です「ホタルの季節ですね その生態を徹底解剖」”、ラジオ朝日、2018年5月29日
- [2] “知りたがりっ！「食を通じて里山を守る」”、NHK大津放送局、2018年5月30日

4. 報道掲載リスト

- [1] “里山の達人一押 里山食べ語り”、京都新聞滋賀版、2018年4月2日～9月24日

5. ホームページによる研究成果の公表等

- [1] URL：http://www.est.ryukoku.ac.jp/est/yuhma/YUMA_hotaruDAS2018.html
掲載情報の概要：里山学研究センターにおける京滋のホタル発生状況に関する調査結果について、所属研究室のwebにおいて公表した。（遊磨正秀） 公表日：平成30年7月
- [2] URL：http://zenhoken.sakura.ne.jp/HP_HotRef2016/HotRef2016_index.htm
掲載情報の概要：ホタルに関する文献（日本人による文献 6,243編，海外の方による文献 1,516 編）を収録した「ホタル関連文献目録（2016年版）」のwebにおいて公開をした。（遊磨正秀） 公表日：平成31年1月

6. その他

- [1] 遊磨正秀、大津市緑の基本計画審議会委員
- [2] 遊磨正秀、天然記念物「船小屋ゲンジボタル発生地」保護指導委員会・委員長
- [3] 遊磨正秀、天然記念物山口ゲンジボタル発生地現状変更申請審査会委員
- [4] 遊磨正秀、大津市廃棄物処理施設に関する意見聴取会委員
- [5] 遊磨正秀、琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会委員
- [6] 遊磨正秀、日本景観生態学会運営委員会委員
- [7] 遊磨正秀、生態学会近畿地区会 自然保護専門委員会委員
- [8] 遊磨正秀、環境技術学会編集委員
- [9] 遊磨正秀、滋賀ビオトープ研究会幹事
- [10] 遊磨正秀、全国ホタル研究会会長